



SUAC 理解・基礎データ集

2025

目次

はじめに	1
第1章 学生数・教職員数等	2
「学部生・大学院生数の推移」、「学部生の出身県別一覧」、「退学者数及び休学者数」「教職員数等」	
第2章 入試	5
「令和7年度入試の学部・大学院の選抜状況」、「過去3年間の志願状況」、「入試制度の概要」、「説明会・大学見学等」	
第3章 グローバル化	8
「本学学生の海外への留学」、「外国人留学生の受入」、「海外渡航に関するサポート」、	
第4章 進路	10
「学部生」、「大学院生」、「各種資格免許」	
第5章 研究	13
「各種研究費」、「研究成果の発信」、「各種制度」	
第6章 地域連携	15
「地域貢献」、「産学官連携」、「ふじのくに地域・大学コンソーシアム事業」、 「高大連携事業「出張講義」等の実施状況」、 「国・県・市町等の各種審議会、委員会等への教員参画状況」、「施設見学・施設開放」	
第7章 学生支援	18
「生活支援（保健室・学生相談室・修学サポート室等）」	
第8章 教育課程	19
「基本事項」、「特色のある教育」	
第9章 大学運営予算収支	21
「財務諸表及び予算収支」	
第10章 図書館・情報センター	22
「施設概要、蔵書・主な所蔵資料」、「利用実績」、「利用案内」、「充実した情報教育環境」	
第11章 文化・芸術研究センター	24
「設置目的」、「センター機能」、「センター運営」、「主な関連施設」	
第12章 地域連携センター	25
「設置目的」、「センター業務」、「センター運営」、「主なセンター事業」	
第13章 工房・施設	27
「概要」、「利用可能時間」、「利用手続き」、「学生への指導」、「コース演習室」、「工房等一覧」	
第14章 大学の成り立ち	29
「大学の設立の契機」、「新大学の設立に向けて」、「設立における基本構想」、「大学用地」 「建築の特徴」、「大学のあゆみ」	

はじめに

静岡文化芸術大学は、平成12年4月に静岡県立大学短期大学部を改組転換して新たに設置された大学であり、開学当初は静岡県、浜松市、地元経済界が協力して設立した学校法人が運営する公設民営方式の私立大学であった。

その後、平成22年4月に静岡県が設立した公立大学法人が運営する公立大学に移行し、現在に至っている。

- 1 開学年月日 平成12年4月1日（設置認可：平成11年12月22日）
- 2 所在地 浜松市中央区中央二丁目1番1号
- 3 学長 横山 俊夫（平成28年4月1日就任、令和4年4月1日再任）
- 4 副学長 森 俊太（令和2年4月1日就任、令和6年4月1日再任）
服部 守悦（令和6年10月1日就任、令和7年4月1日再任）
谷川 真美（令和7年4月1日就任）

- 5 設置主体 公立大学法人静岡文化芸術大学

- 6 建物構造等

ア 土地・敷地面 浜松市が譲与

イ 校舎・構造：鉄筋コンクリート造、鉄骨鉄筋コンクリート造、鉄骨造

規模：地上12階地下1階建（研究棟）

地上1～5階建（研究棟以外）

建築面積：17,867㎡

延床面積：50,688㎡

建設費：約213億円 静岡県が全額助成

- 7 設立の趣旨

21世紀という時代と地域の要請を踏まえ、様々な分野で活躍できる人材を養成し、本県産業の発展と文化の向上並びに学術の振興に寄与する。

ア 豊かな人間性と的確な時代・社会認識を持ち、国際社会で活躍できる人材養成

イ 地域、世界、世代が教育研究の場で融合する“開かれた大学”として地域、国際社会の発展に貢献

第 1 章 学生数・教職員数

1 学部生・大学院生数の推移

(1) 学部・学科

基準日：各年5月1日（単位：人）

学部名	学 科 名	在 籍 者 数		
		令和5年度	令和6年度	令和7年度
文化政策学部	国際文化学科	467	461	470
	文化政策学科	250	249	248
	芸術文化学科	243	239	243
	小 計	960	949	961
デザイン学部	デザイン学科	484	486	495
合 計		1,444	1,435	1,456

(2) 大学院

基準日：各年5月1日（単位：人）

研究科名	専攻名	在 籍 者 数		
		令和5年度	令和6年度	令和7年度
文化政策研究科	文化政策専攻	16	17	12
デザイン研究科	デザイン専攻	24	24	25
合 計		40	41	37

2 学部生の出身県別一覧

基準日：各年5月1日（単位：人）

都道府県名	学 部				
	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
北海道	12	13	15	18	20
青森県	5	6	4	6	8
岩手県	10	10	11	11	11
宮城県	7	7	7	6	5
秋田県	1	1	3	3	4
山形県	6	3	5	3	3
福島県	7	8	10	12	9
茨城県	15	14	13	15	15
栃木県	13	17	19	17	16
群馬県	10	8	11	10	7
埼玉県	2	3	4	3	3
千葉県	8	6	5	6	9
東京都	8	9	10	9	11
神奈川県	10	9	9	9	8
新潟県	15	20	21	18	18
富山県	12	9	13	16	14
石川県	13	10	11	10	11
福井県	13	13	16	12	15
山梨県	28	29	29	22	25
長野県	34	34	32	29	26
岐阜県	60	61	57	60	65
静岡県	541	551	575	580	594
愛知県	327	329	309	311	310
三重県	53	53	55	46	48
滋賀県	8	9	8	8	8
京都府	16	12	14	13	16
大阪府	15	13	11	11	10
兵庫県	20	15	15	17	19
奈良県	3	2	2	1	1
和歌山県	7	7	8	7	7
鳥取県	4	4	1	0	2
島根県	8	8	9	8	3
岡山県	14	19	20	22	18
広島県	9	8	9	11	14
山口県	2	2	2	5	5
徳島県	4	4	6	8	6
香川県	7	8	9	8	8
愛媛県	11	18	19	18	16
高知県	4	10	11	10	10
福岡県	11	8	5	5	7
佐賀県	1	1	2	2	1
長崎県	3	4	4	3	2
熊本県	11	11	10	10	8
大分県	3	1	1	1	2
宮崎県	6	5	5	7	6
鹿児島県	10	12	10	10	12
沖縄県	8	12	12	14	15
留学生・帰国生徒等	11	7	7	4	5
合 計	1,406	1,423	1,444	1,435	1,456

3 退学者及び休学者数

(1) 退学者数

令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
21人	10人	12人	18人	13人

(2) 休学者数

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
合計人計	40人	57人	66人	81人	73人
うち海外研修など	11人	23人	30人	43人	22人

4 教職員数等

(1) 教員内訳

令和7年5月1日現在（単位：人）

学部	学科	性別	教授	准教授	講師	助教	特任教授	特任助手	小計	合計
文化政策	国際文化	男	9	8	0	0	0	0	17	25
		女	6	2	0	0	0	0	8	
	文化政策	男	8	1	1	0	2	0	12	15
		女	1	2	0	0	0	0	3	
	芸術文化	男	2	1	1	0	0	0	4	13
		女	5	1	3	0	0	0	9	
デザイン	デザイン	男	10	7	2	1	2	4	26	37
		女	5	3	1	0	0	2	11	
小 計		男	29	17	4	1	4	4	59	59
		女	17	8	4	0	0	2	31	31
計			46	25	8	1	4	6	90	90

(2) 職員内訳

令和7年5月1日現在（単位：人）

	県派遣	市派遣	民間派遣	プロパー	期間契約	期間契約	臨時	非常勤	嘱託	計
					(事務)	(技術)				
男	8	1	1	19	0	2	0	3	1	35
女	5	0	0	15	21	0	2	7	2	52
計	13	1	1	34	21	2	2	10	3	87

第2章 入試

1 令和7年度入試の学部・大学院の選抜状況

(単位：人)

学 部			国際文化学科	文化政策学科	芸術文化学科	デザイン学科	
						数学	実技
一般選抜	前期	募集人員	65	40	36	40	35(5)
		志 願 者	150	149	74	177	124(26)
		志願倍率(倍)	2.3	3.7	2.1	4.4	3.5(5.2)
		受 験 者	143	141	71	170	118(26)
		合 格 者	70	48	43	45	43(5)
		入 学 者	61	41	41	43	40(5)
	後期	募集人員	10	5	5	10	
		志 願 者	252	148	84	158	
		志願倍率(倍)	25.2	29.6	16.8	15.8	
		受 験 者	70	54	28	82	
		合 格 者	28	9	5	10	
		入 学 者	26	7	4	9	
学校推薦型選抜	公募制	募集人員	18	10	14	25	
		志 願 者	45	32	56	111	
		志願倍率(倍)	2.5	3.2	4.0	4.4	
		受 験 者	45	32	55	111	
		合 格 者	18	10	15	26	
		入 学 者	18	10	15	26	
	英語重点型公募制	募集人員	7				
		志 願 者	14				
		志願倍率(倍)	2.0				
		受 験 者	14				
		合 格 者	7				
		入 学 者	7				
特別選抜	社会人	募集人員	若干名	若干名	若干名	若干名	
		志 願 者	0	0	0	1	
		受 験 者	0	0	0	1	
		合 格 者	0	0	0	1	
		入 学 者	0	0	0	1	
	帰国生徒	募集人員	若干名	若干名	若干名	若干名	
		志 願 者	0	0	0	0	
		受 験 者	0	0	0	0	
		合 格 者	0	0	0	0	
		入 学 者	0	0	0	0	
	外国人留学生	募集人員	若干名	若干名	若干名	若干名	
		志 願 者	0	0	0	2	
		受 験 者	0	0	0	2	
		合 格 者	0	0	0	1	
		入 学 者	0	0	0	1	

※ () 書きは、ポートフォリオ提出型選抜入試の人数と倍率

担当室：入試室（完了後白文字に変換→PDF）

大学院		文化政策研究科	デザイン研究科
募集人員		10	10
志願者	学内推薦	1	2
	A 日 程	3	17
	B 日 程	3	7
	計	7	26
合 格 者		4	12
入 学 者		4	12

2 過去3年間の志願状況

(1) 学部入試

【令和5年度】

(単位:人)

学部	学科	定員	志願者	志願倍率	受験者	合格者	実質倍率	入学者	充足率	県内/県外構成比(%)	新卒/既卒構成比(%)	男子/女子構成比(%)
				(倍)			(倍)		(%)			
文化政策	国際文化	100	417	4.17	272	121	2.25	117	117	49/51	98/2	17/83
	文化政策	55	194	3.53	147	65	2.26	62	113	63/37	97/3	35/65
	芸術文化	55	206	3.75	151	63	2.40	56	102	30/70	95/5	11/89
	学部計	210	817	3.89	570	249	2.29	235	112	48/52	97/3	20/80
デザイン	デザイン	110	651	5.92	559	127	4.40	120	109	28/72	91/9	29/71
	学部計	110	651	5.92	559	127	4.40	120	109	28/72	91/9	29/71
総計		320	1468	4.59	1129	376	3.00	355	111	41/59	95/5	23/77

【令和6年度】

(単位:人)

学部	学科	定員	志願者	志願倍率	受験者	合格者	実質倍率	入学者	充足率	県内/県外構成比(%)	新卒/既卒構成比(%)	男子/女子構成比(%)
				(倍)			(倍)		(%)			
文化政策	国際文化	100	361	3.61	245	111	2.21	103	103	48/52	97/3	9/91
	文化政策	55	286	5.20	212	64	3.31	60	109	62/38	98/2	20/80
	芸術文化	55	225	4.09	170	65	2.62	59	107	27/73	95/5	12/88
	学部計	210	872	4.15	627	240	2.61	222	106	46/54	97/3	13/87
デザイン	デザイン	110	651	5.92	552	128	4.31	120	109	28/72	84/16	25/75
	学部計	110	651	5.92	552	128	4.31	120	109	28/72	84/16	25/75
総計		320	1523	4.76	1179	368	3.20	342	107	40/60	92/8	17/83

【令和7年度】

(単位:人)

学部	学科	定員	志願者	志願倍率	受験者	合格者	実質倍率	入学者	充足率	県内/県外構成比(%)	新卒/既卒構成比(%)	男子/女子構成比(%)
				(倍)			(倍)		(%)			
文化政策	国際文化	100	461	4.61	272	123	2.21	112	112	59/41	96/4	18/82
	文化政策	55	329	5.98	227	67	3.39	58	105	59/41	97/3	24/76
	芸術文化	55	214	3.89	154	63	2.44	60	109	27/73	100/0	5/95
	学部計	210	1,004	4.78	653	253	2.58	230	110	50/50	97/3	16/84
デザイン	デザイン	110	573	5.21	484	126	3.84	120	109	30/70	87/13	30/70
	学部計	110	573	5.21	484	126	3.84	120	109	30/70	87/13	30/70
総計		320	1,577	4.93	1,137	379	3.00	350	109	43/57	94/6	21/79

(2) 大学院入試

【令和5年度】

(単位:人)

研究科	定員	志願者	志願倍率	受験者	合格者	実質倍率	入学者	充足率	男子/女子実数	学内/学外実数
			(倍)			(倍)		(%)		
文化政策	10	11	1.10	11	11	1.00	9	90	3/6	3/6
デザイン	10	22	2.20	21	13	1.62	11	110	5/6	8/3
総計	20	33	1.65	32	24	1.33	20	100	8/12	11/9

【令和6年度】

(単位:人)

研究科	定員	志願者	志願倍率	受験者	合格者	実質倍率	入学者	充足率	男子/女子実数	学内/学外実数
			(倍)			(倍)		(%)		
文化政策	10	10	1.00	10	7	1.43	5	50	1/4	2/3
デザイン	10	37	3.70	36	14	2.57	11	110	3/8	8/3
総計	20	47	2.35	46	21	2.19	16	80	4/12	10/6

【令和7年度】

(単位:人)

研究科	定員	志願者	志願倍率	受験者	合格者	実質倍率	入学者	充足率	男子/女子実数	学内/学外実数
			(倍)			(倍)		(%)		
文化政策	10	7	0.70	7	4	1.75	4	40	2/2	2/2
デザイン	10	26	2.60	25	12	2.08	12	120	5/7	9/3
総計	20	33	1.65	32	16	2.00	16	80	7/9	11/5

3 入試制度の概要

(1) 学部

選抜方法	概要
一般選抜	- 各学科の入学受け入れの方針に従い、高等学校における学習の基本的達成度を問う大学入学共通テストを課す。 - 各学科が必要とする個別学力試験（デザイン学科は実技を含む）により入学者を選抜する。
学校推薦型選抜	- 大学入学共通テストを課さず、面接と小論文により入学者を選抜する。 「公募制入学試験」に加え、国際文化学科では英語小論文及び日本語面接と英語面接を課す「英語重点型公募制入学試験」を行っている。
特別選抜	社会人入学試験、帰国生徒入学試験、外国人留学生入学試験を実施している。

(2) 大学院

研究科	概要
文化政策	- 学力検査（英語、専門）及び口頭試問により入学者を選抜する。 - 留学生については、条件を満たせば学力検査（英語）を免除することができる。 36か月以上の社会人としての経験を有する者については、学力検査（英語、専門）を免除し、「小論文」試験及び「研究計画書」の提出をもってこれに代えることができる。
デザイン	- 学力検査（論述試験）及び口頭試問により入学者を選抜する。 - 受験者全員に、本学が指定する外国語検定試験の結果の提出を課している。 36か月以上の社会人としての経験を有する者については、外国語検定試験の結果の提出を免除し、「業歴書」及び「主な業務成果の報告」の提出をもってこれに代えることができる。

4 説明会・大学見学等

開催行事等	概要	実績等
オープンキャンパス	- 例年、8月第1または第2土日に開催。 - R6年度は完全対面（事前申込不要、人数制限なし）で実施。 【実施内容】 入試説明、学科説明、模擬授業、各学科企画、オープンゼミ、研究室ツアー、工房見学ツアー、入試セミナー、卒業生トーク、相談コーナー、サークル紹介等	R6：3,253人
高校教員対象オープンキャンパス	- 全国の高校教員を対象とし、例年6月末・7月初旬の2回実施。 - 進路指導に直接携わる高校教員が本学への理解を深める機会を提供し、志願者の増加につなげることを目的として実施。 【実施内容】 授業見学、学生による学科説明プレゼンテーション、入試説明等。	R6：65人 （県内48人、県外17人）
進学説明会	【高校教員対象 大学説明会・相談会】 ※本学独自開催 ・名古屋会場にて実施。	参加者 R6：22人
	【県内国公立4大学合同説明会】 ・県内国公立4大学（本学、静大、浜松医大、県立大）が合同で6月から7月に高校教員対象説明会・相談会（対面・オンライン）と高校生対象説明会・相談会（オンライン）実施。	参加者 R6：教員87人 高校生11人
	【業者・高校企画説明会】 ・高校生対象の説明会と相談会を実施。	R6：115回 （約1,400人）
模擬授業	- 志望校決定や大学での勉強について学ぶ機会として高校側からの依頼に応じて実施。 - 授業は高校へ出張して行う場合が大半だが、本学見学时や進学説明会時に授業を行う場合もある。 - 高校からの申込受付期間は、4月から5月まで。	R6：28回
大学見学	- 高校からの依頼に応じて実施。 - 主な内容は、大学概要説明、学生によるプレゼンテーション、施設見学、模擬授業等。 - 受入期間は、5月から10月まで。	R6：12回

第3章 グローバル化

1 本学学生の海外への留学

(1) 静岡文化芸術大学学生の海外への留学等

①大学間交流協定に基づく留学生（海外）

基準日：各年5月1日（単位：人）

区 分	令和4年度	令和5年度	令和6年度
フィンドレー大学（アメリカ）	9（9）	11（7）	3（3）
サザンクロス大学（オーストラリア）	1（1）	1（0）	2（2）
ウェールズ大学トリニティ・セント・デイビッド（イギリス）	0	0	1（1）
浙大城市学院（中国）	0	0	0
国立台湾師範大学（中国）	4（4）	5（1）	4（3）
アイルランガ大学人文学部（インドネシア）	0	0	0
ボローニャ大学（イタリア）	4（4）	6（2）	2（0）
湖西大学校（韓国）	4（4）	4（1）	3（3）
ブルゴーニュ大学国際フランス語センター（フランス）	3（3）	3（3）	6（3）
コートダジュール大学サステイナブルデザインスクール（フランス）	3（3）	4（1）	2（2）
国立高等装飾美術学校（フランス）	0	0	0
華東師範大学（中国）	1（1）	1（0）	0
イズミル経済大学（トルコ）	4（4）	4（3）	2（2）
ダッカ大学（バングラデシュ）	0	0	0
ウダヤナ大学（インドネシア）	1（1）	1（0）	1（1）
サンパウロ大学 哲学・文学・人間科学部（ブラジル）	3（3）	2（0）	2（2）
ワルシャワ美術アカデミー（ポーランド）	0	0	0
計	37（37）	44（18）	33（20）

※（ ）書きは、派遣学生のうち、当該年度に新しく派遣した（する）学生数

※令和4年5月から海外協定校への派遣を再開

②令和5年度語学研修

基準日：各年5月1日（単位：人）

区 分	語 学	参加人数
ブルゴーニュ大学国際フランス語センター（フランス）	フランス語	3
バンガー大学（イギリス）	英語	10
ヴィクトリア大学（カナダ）	英語	2
カンタベリー大学CCEL（イギリス）	英語	3
国立台湾師範大学（台湾）	中国語	8
サザンクロス大学（オーストラリア）	英語	2
その他の集中語学研修履修者※	-	1

- ・ 国際交流の機会を多くの学生に提供するため、2万円～3万5千円の費用補助を実施
- ・ 研修後に受験する外部検定の費用補助を実施

2 外国人留学生の受入

(1) 海外学生の静岡文化芸術大学への留学

基準日：各年5月1日（単位：人）

国別	令和5年度				令和6年度				令和7年度			
	学部生	大学院生	研究生	交換留学生	学部生	大学院生	研究生	交換留学生	学部生	大学院生	研究生	交換留学生
中国	2	12	4	3	1	7	5	3	1	6	3	4
韓国	2	0	0	5	0	0	0	3	0	0	0	0
台湾	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0
インドネシア	1	0	0	0	2	0	0	0	1	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	2
計	5	13	4	8	3	8	5	9	3	6	3	6

※研究生…1年以内の研究従事・単位規定なし

区 分	令和4年度	令和5年度	令和6年度
浙大城市学院（中国）	3（3）	6（3）	6（3）
国立台湾師範大学（中国）	0	1（1）	0
アイルランガ大学人文学部（インドネシア）	0	0	0
ボローニャ大学（イタリア）	0	0	0
湖西大学校（韓国）	5（5）	6（3）	5（4）
コートダジュール大学サステイナブルデザインスクール（フランス）	0	2（2）	2（1）
国立高等装飾美術学校（フランス）	0	0	0
華東師範大学（中国）	0	0	0
イズミル経済大学（トルコ）	0	0	0
ダッカ大学（バングラデシュ）	0	0	0
ウダヤナ大学（インドネシア）	0	0	0
サンパウロ大学 哲学・文学・人間科学部（ブラジル）	0	0	0
ワルシャワ美術アカデミー（ポーランド）	0	0	0
計	8（8）	15（9）	15（9）

※（ ）書きは、受入留学生のうち、当該年度に新しく受入れた学生数

※令和4年度後期から留学生の受入れを再開

3 海外渡航に関するサポート

派遣留学生危機管理サービス（Overseas Student Safety Management Assistance Plus）

（本学公式のプログラムは加入必須、割引保険料で加入可能）海外渡航中、24時間年中無休で日本語による電話サポートが受けられ、ケガ・病気への備え（治療費用、救援者費用等）、病院予約等ができる。

第4章 進路

1 学部生

(1) 令和7年3月卒業生の就職状況

令和7年3月末現在（単位：人）

		文化政策学部				デザイン学部	計
		国際文化学科	文化政策学科	芸術文化学科	学部計	デザイン学科	
卒業者	a	98	58	52	208	109	317
就職希望者	b	77	54	47	178	95	273
（就職希望率）	b/a	78.6%	93.1%	90.4%	85.6%	87.2%	86.1%
就職者	c	75	54	47	176	91	267
大学院進学者	d	1	2	1	4	9	13
その他	e	20	2	4	26	5	31
就職率	c/b	97.4%	100.0%	100.0%	98.9%	95.8%	97.8%

（内訳）

大学院進学者	d	1	2	1	4	9	13
実績	本学	1	1	0	2	8	10
	他大学	0	1	1	2	1	3

(2) 県内外の就職状況

令和7年3月卒業生（単位：％）

学部	出身	県内就職	県外就職
文化政策学部	県内出身者	51.7	31.9
	県外出身者	48.3	85.9
	小計	100.0	58.0
デザイン学部	県内出身者	26.4	66.7
	県外出身者	73.6	86.6
	小計	100.0	81.3
全体	県内出身者	43.1	39.1
	県外出身者	56.9	86.2
	合計	100.0	65.9

(3) 就職先業種の状況

令和7年3月卒業生

学部/業種	建設	製造	電気ガス水道	運輸通信	卸小売	金融・保険	サービス	公務	他
文化政策学部	4	18	2	33	28	19	45	22	5
デザイン学部	9	18	0	26	14	0	21	3	0
全体	13	36	2	59	42	19	66	25	5

(4) 就職率の推移

(単位：%)

卒業時期	全体	文化政策学部	デザイン学部	※参考：全国
令和5年3月	96.3	97.2	94.6	97.3
令和6年3月	96.2	98.5	91.3	98.1
令和7年3月	97.8	98.9	95.8	98.0

担当室：キャリア支援室（完了後白文字に変換→PDF）

(5) 就職先地域の建寧・県外別推移

(単位：%)

就職先地域	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
県内	36.7	39.4	35.9	33.7	34.1
県外	63.3	60.6	64.1	66.3	65.9

(6) 本学への求人数の推移

(単位：件)

令和4年度	令和5年度	令和6年度
12,418	13,878	15,299

2 大学院生

令和7年3月修了生の修了生の就職状況

令和7年3月末現在（単位：人）

		文化政策研究科	デザイン研究科	計
修了者	a	8	10	18
就職希望者	b	5	8	13
(就職希望率)	b/a	62.5%	80.0%	72.2%
就職者	c	5	7	12
進学者	d	0	0	0
その他	e	3	3	6
就職率	c/b	100.0%	87.5%	92.3%

3 各種資格免許

項目／卒業年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
高等学校教諭1種免許状（英語、国語、公民）	10	13	5	10	11
中学校教諭1種免許状（英語、国語、社会）	9	9	5	6	11
学校図書館司書教諭資格	6	4	2	2	3
図書館司書資格	36	25	24	21	19
博物館学芸員資格	15	16	21	13	19
日本語教員養成課程（主専攻・副専攻）	10	10	7	7	13
一級建築士試験受験資格（実務試験を除く）	15	16	25	27	25
二級及び木造建築士試験受験資格	15	16	25	27	25

第5章 研究

1 各種研究費

(1) 個人研究費

令和6年度は、全専任教員対象で一人あたり年額44万円。大学院兼務教員への加算（講義担当者：2.5万円、研究指導担当者5万円）や、公開講座、公開工房、高大連携への協力実績に応じた加算あり。

(2) 教員特別研究費

教員特別研究費制度を設け、教員の研究活動を支援している。研究内容について申請をした教員にヒアリングを行い、採択の可否及び配分額を決定している。

【教員特別研究費：採択実績】

（単位：件、千円）

研究区分	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
重点研究	5	3,451	6	3,340	6	4,325	2	2,306	0	0
先進的研究	4	2,714	4	2,480	3	1,040	4	2,093	1	1,110
その他研究	4	1,917	4	2,011	1	700	1	977	1	400
文芸センター研究	4	2,680	5	2,808	4	2,069	3	1,362	4	2,175
合計	17	10,762	19	10,639	14	8,134	10	6,738	6	3,685

(3) 科学研究費補助金（科研費）

科研費は、文部科学省および日本学術振興会が実施する競争的資金で、人文・社会科学から自然科学まですべての分野にわたり、基礎から応用までのあらゆる学術研究を格段に発展させることを目的とする競争的資金であり、審査を経て、独創的・先駆的な研究に対する助成を行うもの。

【科研費：新規採択実績】

（単位：件、千円）

研究区分	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
基盤研究（B）（一般）			1	6,240	1	15,020			1	25,870
基盤研究（C）（一般）	3	10,920	4	15,210	6	27,560	1	4,550	2	9,100
研究活動スタート支援							1	2,600		
若手研究			2	8,970			1	4,680	2	8,060
国際共同研究強化（B）										
新学術領域研究										
ひらめき☆ときめき	1	490			1	300				
研究成果公開：学術図書			1	1,000	1	1,400				
合計	4	11,410	8	30,420	9	44,280	3	11,830	5	43,030

【科研費：採択率】

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
申請数	14件	23件	21件	16件	20件
採択数	4件	8件	9件	3件	5件
採択率	29%	35%	43%	19%	25%

2 研究成果の発信

(1) 研究紀要

(単位：件)

Vol.	Vol. 1	Vol. 2	Vol. 3	Vol. 4	Vol. 5	Vol. 6	Vol. 7	Vol. 8	Vol. 9	Vol. 10	Vol. 11	Vol. 12
原著論文					7	7	9	6	4	4	9	10
研究報告、他					10	9	6	10	14	17	9	5
合 計	17	19	15	21	17	16	15	16	18	21	18	15
Vol.	Vol. 13	Vol. 14	Vol. 15	Vol. 16	Vol. 17	Vol. 18	Vol. 19	Vol. 20	Vol. 21	Vol. 22	Vol. 23	Vol. 24
原著論文	12	14	11	10	14	11	13	11	18	7	5	5
研究報告、他	12	9	8	9	8	8	9	6	11	11	9	8
合 計	24	23	19	19	22	19	22	17	29	18	14	13
Vol.	Vol. 25											
原著論文	9											
研究報告、他	8											
合 計	17											

紀要の掲載内容の種類は未発表の研究論文、研究報告、作品論、作品報告等で構成され、言語は日本語、外国語のいずれでもよいものとしている。

査読は行っていない。Vol. 15からWeb版のみを刊行。Vol. 21は、大学創立20周年記念特別号として冊子化した。

(2) 研究成果発表会

教員特別研究の成果を発表するため、平成26年度から毎年11月頃に開催している。平成26年度と平成27年度は、学長特別研究と文化・芸術研究センター特別研究が発表の対象となっていたが、平成28年度からは、全ての教員特別研究を発表の対象としている。

3 各種制度

(1) 出版助成

出版助成の対象は、本学常勤教員が、学術研究の成果を公開するために出版するものであることとし、外部共著者がいる場合には、本学教員が関わっている部分が、総ページ数の50%を切らないことを条件とする。ただし、他の出版助成金を受けたもの又は受ける予定のあるものは対象外とする。

また、助成回数は10年に1回限りとするが、共著の場合は個人とは別に10年に2回までとする。

1件当たりの助成額は、直接経費の2分の1以内かつ100万円以内を原則とし、助成総額は予算の範囲内とする。出版部数は、原則として300部以上とする。

(2) 学外研修制度

学外研修は、本学教員の職務を免除し、研究活動に専念する機会を与えることにより、教員の教育及び研究能力の向上を図ることを目的とする。

①海外研修

自らの学術専攻分野に関わる研修等で国外の政府、大学、研究機関等において行うもの。

②国内研修

自らの学術専攻分野に関わる研修等で、国内の他大学、研究機関等において行うもの。

学外研修の対象教員は専任の教授、准教授及び講師の職にある者で次の要件を満たす者とする。

- ・研修申請年度の4月1日現在、引き続き7年以上（休職期間を除く）在籍している教員であること。
- ・研修終了後、引続き3年以上本学に専任教員として在籍すること。
- ・研修の期間は、海外研修 概ね2週間から3か月程度とし、国内研修 概ね6か月以内とする。ただし、研修を実施した教員は、以降9年間は申請することはできない。

第6章 地域連携

1 地域連携

(1) 生涯学習ニーズへの対応

ア 科目等履修生、社会人聴講生実績

(単位：科目、人)

区 分	令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期
開 講 科 目 数	0	30	37	30	41	39
社会人聴講生	0	44 (50)	50 (64)	51 (61)	52 (63)	63 (78)
科目等履修生	0	1 (1)	2 (4)	1 (1)	1 (1)	1 (1)
計	0	45 (51)	52 (68)	52 (62)	53 (64)	64 (79)

注：新型コロナウイルス感染拡大防止のため、令和2・3年度は社会人聴講生の募集を停止
() は延べ数

イ 公開講座等実績

(単位：回、人)

区 分	令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	実施回数	参加人数	実施回数	参加人数	実施回数	参加人数
公 開 講 座	5	447	4	317	2	83
薪 能	2	503	0	0	0	0
文化・芸術セミナー	2	431	0	0	0	0
イベント・シンポジウム	13	1,866	13	2,242	8	1,903
そ の 他	6	671	4	1,507	4	1,577
計	28	3,918	21	4,066	14	3,563

2 産学官連携

大学の持つポテンシャルを社会に還元するため、民間企業や自治体・団体等学外の機関（学外機関）と本学が共通の課題について研究を行う共同研究や、学外機関からの委託を受けて行う受託研究、受託事業等を行っている。

(単位：件、千円)

種 別	令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
共同研究	4	3,723	1	999	2	999
受託研究	1	1,200	3	2,920	2	784
受託事業	15	11,095	11	12,167	8	11,038

3 ふじのくに大学コンソーシアム事業

高等教育機関相互の連携を深め、また、行政、産業界、非営利活動法人などと広範なネットワークを形成し、県内高等教育機関の教育力・研究力の一層の向上を図るとともに、それぞれの主体が一体となって、地域社会の発展に寄与していくことを目的とし、平成26年3月27日に設立。平成27年4月1日、静岡県から公益認定を受け、公益社団法人となった。

(1) 短期集中単位互換事業

学生が他大学の科目を履修し、在籍大学の単位として認定する制度（単位互換協定校が対象）。本学は平成30年度に単位互換協定を締結し、平成31年度（令和元年度）入学生（新カリキュラム）から単位互換が可能となった（全学科目 総合「特別共同授業B（2単位）」として認定）。

「ふじのくに学」開講講座名
演劇論
静岡県の産業イノベーションⅠ/Ⅱ/Ⅲ
お茶
南アルプスの自然
農林業
森林生態系からの恵み
伊豆の温泉と産業おこし
観光学

(2) 高大連携推進事業

高校生等に大学の学問や大学生活を知る機会を提供し、進学意欲や目的意識の向上を図るため、大学と高校が連携し、大学等の教員による高校への出張講義や大学生によるワークショップなどを行う。

高等学校名	講座テーマ	講師
静岡県立天竜高等学校春野校舎	中山間地域における地域の魅力発信について	船戸修一教授（文化政策学科）

(3) 西部地域共同事業

県西部地域の7大学（静岡大学（工学部・情報学部）、静岡理科大学、静岡産業大学、聖隷クリストファー大学、浜松学院大学・短期大学部、常葉大学、静岡文化芸術大学）及び3市（浜松市・磐田市・袋井市）が連携、協力して大学教育の充実や地域の学術振興を図るため、西部地域の大学間連携による共同事業を実施。令和6年度は10/5～12/7の期間、土曜日の午前に全8回講座を開催した。

令和6年度テーマ：「人間と環境」～Society5.0時代を豊かに生きるため～

本学が担当した講座	講師	会場
フィクションに見るARの実現性	百束朋浩（本学デザイン学部准教授）	静岡大学浜松キャンパス

(4) ゼミ・研究室等地域貢献推進事業

自治体等が抱える地域課題解決のための実践的な研究を行う県内大学のゼミ及び県内学生により組織された団体に対して、助成を行う。

(単位：件)

年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
採択件数	5	7	5	7	7	4	6

(令和6年度実績：採択6件)

	ゼミ名称 (学科)	地域課題名(自治体)
1	水谷・西田ゼミ (国際文化)	古文書整理 地域資源としての古文書を考える(川根本町)
2	船戸ゼミ(文化 政策)	浜松市天竜区佐久間町および浜北区引佐町久留女木地区における地域資源を活かした「関係人口」創出のための比較研究(浜松市)
3	二本松ゼミ(国 際文化)	天竜区熊地区における民間口承文化財(昔話)の調査・記録・公開による地域文化の保存と継承(浜松市)
4	藤井ゼミ(文化 政策)	豊岡地区における農村RM0の形成～定住人口を増やす取り組みについて～(静岡県)
5	林ゼミ(文化政 策)	新県立図書館についての広報手法(静岡県教育委員会)
6	高山ゼミ(デザ イン)	エコツーリズムについての提案(下田市)

(5) ふじのくに地域・大学フォーラム

「ゼミ・研究室等地域貢献推進事業」の研究成果や「共同研究助成事業」の中間報告、高校生の活動紹介などの同発表を行う。令和6年度は上記6ゼミの学生及び教員が参加し、報告した。

4 高大連携事業「出張講義」等の実施状況

(単位：校・人)

令和6年度	
出張先高校数	教員数
28	28

5 国・県・市町等の各種審議会、委員会等への教員参画状況

(単位：人・件)

令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
教員数	委員会等数	教員数	委員会等数	教員数	委員会等数	教員数	委員会等数
87	213	92	194	92	212	90	197

6 施設見学・施設開放

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
オープンキャンパス	8/7・8 (YouTube配 信)	8/6・7(定員 制・対面 YouTube配信)	8/5・6 (対面)	8/3・4 (対面)
県民の日(イベント)	実施なし	8月23日	8月22日	8月20日
学外者の施設利用	講堂、教室等の貸出			

第7章 学生支援

1 生活支援（保健室・学生相談室・就学サポート室等）

大学生活を送るうえで心身の健康を保つためのサポート制度を整備している。直接施設に出向くことが難しい場合は、メール、電話での相談も可。相談者の秘密は保持される。

困っていること	施設名	開室日時
・ケガをしてしまった、体調が悪い ・病気の相談をしたい、健康に不安がある	保健室	月～金曜 9：00～17：00
・カウンセラーに話を聞いてもらいたい ・心に不安を抱えている	学生相談室	月、火、木、金曜 9：00～17：00
・コミュニケーションが苦手、グループワークが苦手、 思いを上手く伝えられない等、授業に支障がある ・身体に障害がある	教務・学生室	月～金曜 9：00～17：00

第8章 教育課程

1 基本事項

(1) 学部課程のディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

本学の学部課程では、所定の課程を修了した者を、ディプロマ・ポリシーに示された能力を修得した者として、学位を授与している（文化政策学部「学士（文化政策学）」、デザイン学部「学士（デザイン学）」）。

大学 WEB サイト ディプロマ・ポリシー（2025 年度以降入学生対象）
<https://www.suac.ac.jp/education/education-policy/diplomapolicy2025/>

(2) 学部課程のカリキュラム（2025 年度以降入学生対象）

本学の学部課程では、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施の方針）を定め、これに基づき、カリキュラムを編成している。カリキュラムの概要は以下のとおり。

文化政策学部のカリキュラムの概要

科目区分			卒業要件単位	
全学科目		キャリア形成（導入、情報・データサイエンス、キャリアデザイン、実践演習）、教養、必修外国語、スポーツ活動、総合	34 単位以上	合計 128 単位以上
文化政策 学部科目		文化・芸術、政策・マネジメント、情報リテラシー、観光	32 単位以上	
学 科 科 目	国際 文化	学科基礎、専門外国語、日本・東アジア、地中海・西欧・北米、多文化共生、卒業研究	各学科 62 単位以上	
	文化 政策	学科必修、政策、経営、情報、卒業研究		
	芸術 文化	学科基礎、政策とマネジメント、文化と芸術、芸術運営の実践、卒業研究		

デザイン学部のカリキュラムの概要

科目区分			卒業要件単位	
全学科目	キャリア形成（導入、情報・データサイエンス、キャリアデザイン、実践演習）、教養、必修外国語、スポーツ活動、総合		30 単位以上	合計 124 単位以上
デザイン学部科目	デザイン必修、デザイン選択（基礎理論、基礎演習、専門理論/専門演習、学部間共通科目）、総合演習、卒業研究		94 単位以上	

※卒業要件単位は、上記のほか、科目区分毎に詳細に定められており、卒業するためには、その卒業要件単位を全て満たす必要がある（詳細は大学案内または履修の手引きを参照）。

2 特色のある教育

本学の学部課程では、2025 年度にカリキュラム改定を行った。2025 年度以降の入学生を対象とするカリキュラムの特色は以下のとおりである（詳細は大学案内を参照）。

1 全学科目/キャリア教育の充実と必修外国語の多様化

「情報・データサイエンス」「キャリアデザイン」の科目群を新設。これまであった科目群（「導入」「実践演習」）とともに1年次から開講することにより、卒業後のキャリアを見据えた学びを展開している。

2 学部間共通科目/視野を広げる学際的な学び

学部の枠を超えた学際的な授業で、学生の視野を広げる「学部間共通科目」を拡充。これにより文化政策学部の学生はデザイン学部の専門科目を、デザイン学部の学生は文化政策学部の専門科目を所属学部の専門科目として履修することができる。

3 文化政策学部/学科を超えた多様な学びの実現

① オプショナル・スタディーズ

文化政策学部の学生が、所属学科での学修に加えて、テーマに沿ってまとめられた他学科の体系的な科目群（プログラム）を履修し、その学修成果を得たことを大学が認証する制度。学生それぞれの関心や目的に応じた学びの実現を目的としている。

② 文明観光学コース

文化政策学部の学生が、所属学科での学修に加えて、コースの指定科目及びコースの専任教員のゼミ・卒業論文を履修し、学修成果を得たことを大学が認証する制度。文明史を踏まえ、新たな地域の宝（観光資源）の発掘や文化・芸術を活用した観光事業の開発に携わる人材を育成することを目的としている。

※オプショナル・スタディーズは2025年度より開始。文明観光学コースは2019年度より開始し、2025年度よりカリキュラムの一部を変更した。

4 デザイン学部 3つの系※をベースにした横断的な学び

柔軟なデザインの思考力を養うため、様々な分野の内容を総合的に学び、広範囲で専門性に富んだカリキュラムを用意。それぞれの進路を踏まえながら必要な科目を履修し、分野を横断しながら幅広く深い学びを獲得する。

※3つの系…匠・プロダクト系（プロダクトデザイン、工芸・造形デザイン）、メディア系（グラフィック・コミュニケーション、映像・メディアコンテンツ）、建築・環境系（建築、インテリア・空間デザイン）。

第9章 大学運営収支

1 財務諸表及び予算収支

(1) 経常収支と経常収益の推移(令和4～6年度損益計算書より)

- ・経常費用(約26億円)の6割超(約17億円)が人件費である。

(単位: 百万円)

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
人 件 費	1,679	1,641	1,727
教 育 経 費	365	297	297
研 究 経 費	111	94	77
教 育 研 究 支 援 経 費	247	271	290
一 般 管 理 費	295	265	244
合 計	2,697	2,568	2,635

- ・経常収益(約26億円)の約6割超(約16億円)が静岡県からの運営費交付金である。

(単位: 百万円)

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
運 営 費 交 付 金 収 益	1,563	1,569	1,615
学 納 金 収 益	871	891	891
外 部 資 金 等 収 益	204	111	65
資 産 見 返 負 債 戻 入	24	0	0
そ の 他 の 収 益	41	44	44
合 計	2,703	2,615	2,615

(2) 当期総利益、利益剰余金の推移(令和4～令和6年度損益計算書、貸借対照表より)

- ・経常収益から経常費用を差し引いたものに資金見返寄附金戻入、積立金取崩収入等を加えた当期総利益は、令和6年度は92百万円となった。

(単位: 百万円)

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
当 期 総 利 益	75	1,242	92

- ・発生した当期総利益のうち静岡県知事の承認が得られたものは、目的積立金として管理し、今後予想される大規模な施設・設備の修繕や情報関連機器の更新等の財源として活用していく。

(単位: 百万円)

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
前中期目標期間繰越積立金	226	195	20
目 的 積 立 金	0	75	159
当 期 未 処 分 利 益	75	1,242	92
利 益 剰 余 金 合 計	301	1,512	271

第10章 図書館・情報センター

1 施設概要、蔵書・主な所蔵資料

(令和7年3月31日現在)

場所、床面積	北棟1・2階・西棟2階、2,814㎡
主な施設	閲覧コーナー(212席)、グループ学習室、貴重書庫、視聴覚コーナー、キャレル(25席)、固定書架、電動書架、メディアステーション(PC 6台、プリンター等)、情報検索コーナー(PC 22台、プリンター等)、貸出PC20台
開館時間	平日 8:45~20:00(試験期間中は8:45~21:00、授業のない期間は9:00~17:00) 土曜日は10:00~17:00(試験期間中は10:00~18:00、授業のない期間は10:00~16:00)
蔵書	和書 240,457冊(4,043)、洋書 29,058冊(530) ()はCD、DVDなど視聴覚資料(外数)
雑誌	和雑誌 1,521タイトル、洋雑誌 248タイトル
その他	高坂文庫(約4,100冊)、木村文庫(約5,200冊)、和田文庫(約1,200冊)、電子ジャーナル(3,147タイトル)、電子書籍(72冊)

2 利用実績

区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
入館者数	75,824人	81,981人	82,326人	83,200人
貸出冊数	33,362冊	34,234冊	33,084冊	34,210冊
貸出者数	13,103人	13,473人	13,493人	14,203人
学生1人当り年間貸出冊数	19冊	19冊	18冊	19冊
相互利用	依頼	349件	509件	393件
	受付	183件	156件	154件

一般開放の実績

登録者数 一般(地域の方など)123人 本学の卒業生・修了生 54人 本学の旧教職員8人 (2025年5月末現在)	利用できる方 当センター所蔵資料を利用して学習もしくは調査研究をする方で ・静岡県内に居住、もしくは静岡県内の事業所等に勤務する20歳以上の方 ・本学の卒業生、旧教職員 ・本学図書館、情報センター長の許可を受けた方
---	---

3 利用案内

レファレンス	必要な資料の所蔵調査や文献探索等の相談に応じるサービス。
コピーサービス	所蔵資料を教育、研究又は学習のために複写する場合に限り管内のコピー機を利用することが可能
相互利用サービス	探している文献が館内で見つからないときに、他の大学図書館や国立国会図書館から文献の複写依頼、図書の貸借ができる。他大学図書館の訪問利用も可能。 (注) いずれも本学館内において手続きが必要
オンラインデータベース	CiNii(国立情報学研究所が運営する、論文や図書・雑誌などの学術情報を検索できるデータベース・サービス)、Magazine Plus(雑誌記事索引検索)、大宅壮一文庫雑誌記事索引検索Web版、朝日新聞クロスサーチ、ヨミダス、静岡新聞データベースplus日経テレコン、中日新聞・東京新聞記事データベース、ジャパンナレッジLib。
国立国会図書館 図書館向けデジタル化資料送信サービス	国立国会図書館がデジタル化した資料のうち、絶版等の理由で入手が困難な資料について、館内で画像の閲覧・複写ができるサービス。
購入希望図書	学習・研究に必要な図書資料で館内に所蔵がなく、館内に配架してほしい図書をリクエストできるサービス。

【メディアステーション ～ “知の拠点” の新たなランドマーク】

ノートPCやタブレット端末により手軽に情報検索が行え、自由度の高い家具配置によりグループワークなどのアクティブラーニングが可能なエリア。デザイナーカイクである名作家具やポスターなどを通して、それらが制作された時代に触れることのできる空間として活用されている。

【充実した図書館教育】

学部1年次必修科目「学芸の基礎」において、図書館職員が図書館の活用法やデータベースの利用方法等について講義する「資料探索法」を実施。講義は2コマ（90分×2）で、図書館の館内ツアー等も行っている。

【特色あるコレクション】

高坂文庫	本学の初代学長に就任予定だった高坂正堯先生のご遺族から寄贈された本、約4,100冊。先生のご専門である国際政治や外交分野が多い。
木村文庫	初代学長・木村尚三郎先生のご遺族から寄贈された本、約5,100冊。西洋史を中心とした、文化・芸術に関するコレクション。
ラスキン文庫	イギリスの美術批評家・社会思想家であるジョン・ラスキンの全集。
和田文庫	浜松市北部の天竜区龍山で、江戸時代に山林業・酒造業・回船問屋を生業としていた和田家が、江戸時代中期から後期にわたり収集した歌書、史書、漢籍、遠州国学関係の古書、千百冊。
ベートーヴェン・コレクション	ベルリン国立図書館所蔵（旧プロイセン文化財音楽部門）の手書き楽譜資料のマイクロフィッシュ。275点のカラーフィッシュを含む全460フィッシュの資料集成。

【学術リポジトリ】

本学の教育及び学術研究成果を社会に還元するため、本学教職員が作成した学術成果を電子的形態で蓄積、保有し、学内外に無償で発信及び提供している。（国立情報学研究所が運営する「JAIR Cloud」に参加している）

4 充実した情報教育環境（令和7年3月31日現在）

CALLシステムを備え語学学習に特化したLL教室（北0401教室）をはじめ、統計解析からプログラミングまで幅広い授業が展開される情報処理演習室（北0402、0407）、建築CAD、製品CADからグラフィックデザイン、ゲーム、CG、映像編集等、主にデザイン学科の授業が展開される情報系工房等に、高性能PCなど充実した情報機器が整備されている。

401（LL）教室 56台（Windows）

402 教室 42台（Windows）

407 教室 66台（Windows）

主な情報系工房には以下の台数のパソコンが設置されている。

グラフィックWS室 40台（Windows）

CG工房 14台（Windows）＋2台（Mac）

マルチメディア室 50台（Mac）

OA室 53台（Windows）＋2台（Mac）

人体機能実験室 4台（Windows）

電子制御機器製作室 20台（Windows）

CAD/CAM室 6台（Windows）

空間演出実験室 6台（Windows）

平面工房 2台（Mac）

空間演出実験室には、A0サイズもカラー印刷できる大判プリンター（プロッタ）が6台用意されている。

本学のほとんどのパソコンには、Windows・Macを問わず、Microsoft Office365、及び、Adobe Creative Cloudがインストールされているため、図書館・情報センター内メディアステーションでの論文・課題作成の他、指導教員等の許可を得て情報系工房での作品の制作に取り組むことができる。

グラフィックWS室には3D画像を作成できるソフトが、CG工房には3D画像及びCG画像を作成できるソフトがあり、専攻した学生は指導教員等の許可を得て教室での作品制作ができる。

5 専学での無線LAN（Wi-Fi）

本学の学生・教職員であれば、次頁の場所で学内ネットワークによる無線LAN（SUAC Wi-Fi）を利用することができる。また本学は国際的な教育機関向け無線LANローミングサービス「eduroam」に参加しているため、「eduroam」に参加している他機関の学生や教職員も、本学の無線ネットワーク基盤を利用して無線LANを利用することができる。

第11章 文化・芸術研究センター

1 設置目的

文化・芸術研究センターは、「両学部連携のもと、文化芸術に関する専門的研究成果を学内外に広く発信するとともに、国際社会や地域社会との幅広い交流及び連携を図ること」を目的としている。

2 センター機能

文化・芸術研究センターの機能は、文化・芸術研究センター規則により、以下のように定められている。

(1) シンボル機能

両学部連携及び大学理念の象徴、特徴的空間による感性の刺激

(2) 研究開発機能

文化芸術に関する根源的研究、新しい文化・芸術活動の展開

(3) 情報受発信機能

開かれた大学の理念実現に向けた研究成果・活動内容の情報受発信

3 センター運営

文化・芸術研究センターの運営は、文化・芸術研究センター長のほか、各学部長、各研究科長、事務局長等 によって組織された「文化・芸術研究センター運営委員会」が必要な事項を審議し運営を行い、事務を企画室が担当している。

4 主な関連施設

(1) 文化・芸術研究センターホール及び瞑想空間

授業実施日の9:00～18:00は、基本的に開放し、学生、教職員が自由に使用することが出来る。常設備品として、ピアノが1台設置されているが、これも自由に使用できる。但し、授業や学生イベントを実施する場合は、事前の申請により占有利用も可能である。

(2) ギャラリー ※通称「西ギャラリー」

ギャラリーは、「静岡文化芸術大学における教育・研究・学生活動に関連又は寄与する展示及び行事等を行うために使用する」と定められており、使用できるのは、本学教職員、本学学生、総括施設管理者（＝事務局長）が必要と認める者のみとしている。一般に開放できる施設には位置付けられていないため、学外者は大学・教員・学生主催の事業や、展示会等の観覧、見学者としてのみ参加可能。展示会等を実施することが多いため、土日及び祝日も時間内（9:00～16:00）であれば、学内者の使用や学外者の入館が可能である。

第12章 地域連携センター

1 設置目的

本学と地域との連携や交流を深め、本学における文化やデザインにかかわる大学の知見を活かした産業振興や地域づくりを行う。

2 センター業務

地域連携センターの業務は、地域連携センター規則により、以下のように定められている。

- (1) 企業、自治体、大学等との連携に関すること
- (2) 地域連携活動に伴う公開講座、イベント、シンポジウム等に関すること
- (3) 地域課題に係る調査研究に関すること
- (4) その他、地域との連携及び交流並びに地域貢献に関すること

3 センター運営

地域連携センターの運営は、地域連携センター長のほか、各研究科長、事務局長等によって組織された「地域連携センター運営委員会」が必要な事項を審議し運営を行い、事務を地域連携室が担当している。

4 主なセンター事業

(1) 公開講座

令和6年度実績

テーマ	内 容
道具から「ものづくり」「人づくり」を考える	概要：日本の「ものづくり文化」の原点といえる「道具」を起点に、「ものづくりと人づくり」を多角的に捉え、身体でも考える。 日時：令和6年7月7日（日）13:00～17:00 プログラム： ・講演「ものづくりの背景とつながりを考える」 森田みか、堀池真帆（オクシズ「漆の里」協議会） ・対談「大工道具の作り手、使い手の現在、そして未来」 水野日出男（大工）、新妻淳子准教授 ・体験「道具に触れる」 水野日出男、山口貴一特任助手 ・講演「道具はどのように人と自然をつないできたか」 武田淳准教授 ・ディスカッション「ものづくり、人づくりを考える」 森田みか、水野日出男、荒川朋子准教授、武田淳、新妻淳子、山口貴一
日中映画文化交流シンポジウム 日中映画交流から映像文化の未来へ—謝晋・生誕100周年からの問い	概要：世界有数の規模を誇る映画博物館である上海電影博物館の副館長をはじめ、日中両国の多彩なゲストを講師として迎え、謝晋の映画を通じた日中映画交流から、映像文化の未来を探る機会とした。 日時：令和6年10月27日（日）10:00～17:00 プログラム： ・謝晋作品「舞台の姉妹」上映会 ・基調講演「謝晋映画と家国の記憶—謝晋の芸術遺産における収集と更新」 王騰飛（上海電影博物館 副館長兼学芸部長） ・講演「映像文化の歴史と未来—撮影所システムからパーソナル映画へ」 長谷正人（早稲田大学文学学術院教授） ・講演「博物館が資料をアーカイブすること—世界の動向と日本の現状」 田中裕二准教授 ・講演「地方都市における映画資料館の役割—木下恵介記念館の活動について」 村松厚（木下恵介記念館 館長）ほか

(2) イベント・シンポジウム

イベント・シンポジウム等開催費を活用し、教員監修による各種イベント、シンポジウム等を開催している。

令和6年度実績

イベント等名称	開催日	内容
SUACオープンサマーギャラリー2024	8月6日（火）から8月9日（木）	本学学生の作品、研究成果、プロジェクトなどを展示し、一般市民や高校生と本学学生が集う場所を提供した。
Discover Classic Cars ～アナログデザインの真髄を学ぶ～	11月10日（日）	国内外の往年の名車約60台をキャンパス内に展示し、アナログ的ものづくりの文化の原点ともいえるクラシックカーの魅力を再発見する機会とした。
深山の祝祭 （みやまのまつり） 神妻の花の舞 （かづまのはなのまい）	11月15日（金）から 11月20日（水）	浜松市天竜区佐久間町の神妻神社にかつて伝えられていた「花の舞」のお面や装束とこれらに関連したパネルを展示した。また、講演会、ギャラリートーク、神楽の実演などもあわせて開催した。
2024まちむらリレーション市民交流会議 浜松の中山間地域の可能性を考える	2月28日（金）	本学学生や中山間地域で活動するNP0の中山間地域づくりの取り組み事例発表や講演会を通して、浜松の中山間地域の可能性を探った。
科学に関する啓発イベント 「みんなの電話」	3月22日（土）から3月31日（月）	電話の歴史について昭和の頃を中心に、プロダクトの観点、使い勝手（UI/UX）の観点、建築の観点等、様々な方向から紐説いた。

第 13 章 工房・施設

1 概要

本学には造形系工房、実験系工房、情報系工房 わせて32の工房があり、デザイン学部の授業で利用されている。また、課題や自主制作、卒業研究・制作等を行うため、学生はこれらの工房を授業時間外にも利用することができる。

2 利用可能時間

平日 9 : 00 ~ 17 : 50 の授業で使用していないとき（教員の承認があれば 21 : 00 まで延長可）土日の利用は原則不可

3 利用手続き

助手研究室に「工房使用願」を提出し、利用する。

4 学生への指導

（1）工房を安全に利用するため、学生に対して次のような指導を行っている。

- ・ 工房を利用する際は必ず決められた手続きを行うこと
- ・ 各工房で定められた服装・保護具を着用すること
- ・ 情報系工房の利用中は工房を不在にしないこと
- ・ 機械使用基準を遵守すること。

（その機械の危険度に応じて学生の使用を禁止したり、教員・助手の立会いを必要とするなど基準を制定している）

（2）次の工房については、年に 2 回（夏休み・春休み）、機械講習会を実施している。講習会を受講した学生には許可証を発行している。

- ・ 木材加工室の機械
- ・ 金属加工室の機械
- ・ 工作室のレーザー加工機
- ・ 撮影スタジオの設備

5 コース演習室

コース演習室は大学南棟の 4 階・5 階にありデザイン学部の学生が課題制作等を行うことができる。

授業期間の平日・授業日：7 : 00 ~ 21 : 00 使用可能

（9 : 00 ~ 21 : 00 は手続不要。早朝使用は守衛室に学生証提示）

授業期間外の平日・土日祝日：7 : 00 ~ 19 : 00（教務・学生室へ使用届を提出）

6 工房等一覧

本学には素材や目的に応じて、様々な工房が整備されています。
中には授業時間以外にも使用することができる工房もありますが、工房には危険な機械や取扱いに注意を要する機器等がありますので、使用する場合は定められた手続きをとるとともに、安全管理に関するルールを遵守し、ケガなどに十分注意してください。

工房名		室番号	目的	主な機器等	
造形系工房	1	金属加工室	北138	金属加工	旋盤、フライス盤、シャーリング
	2	木材加工室	南183	木材加工	バンドソー、カンナ盤、ベルトサンダー
	3	ガラス工房	東265	ガラス加工	ガラス旋盤、除冷炉
	4	金属工房	南184	金属工芸（鑄造・溶接）	ガス溶解炉、高周波自動遠心鑄造機
	5	塗装乾燥室	東168	塗装・乾燥	オートブース、塗装ブース、乾燥炉
	6	クレイモデル室	南179	クレイモデル製作	三次元測定システム
	7	ドライモデル室	南180	ドライモデル製作	モデリングツール一式
	8	プラスチック加工室	南181	プラスチック加工	NCトリミング加工機、真空成型機
	9	木彫工房	東268	木材小作品の制作	小型糸鋸盤、小型ボール盤
	10	立体工房	北239	彫塑制作	彫塑制作台、粘土槽、真空脱泡機、バレル研磨機
	11	製図室	東368	製図	ドラフター
	12	平面工房	北240	グラフィックデザイン	作画作成パソコン(Mac)、簡易ホリゾン
	13	陶芸工房	東365	陶芸作品の制作	電動ろくろ、陶芸用電気炉
	14	染色工房	東367	染色	水槽、ガス台
	15	CAD/CAM室	南182	製図及び作図・モデル製作	WinPC
	16	暗室	北133	写真等の現像	引伸機、自動現像機
	17	テキスタイル工房	東266	テキスタイル作品の制作	手織り機、ガス台、水槽
	18	デッサン室	南487	デッサン	デッサン用具、石膏像
	19	録音スタジオ	北134	録音	録音機材、無響室
	20	撮影スタジオ	北135	写真撮影	スタジオ照明設備
	21	総合組立アトリエ	東167	大型作品の組立等	コンプレッサー、クレーン
実験系工房	22	構造実験室	東169	構造実験・木材加工（大型）	万能試験機、ホイスト
	23	人体機能実験室	南286	人体機能実験	上肢／下肢測定装置、環境コントロール室、昇降設備
	24	UDラボ	南285	UD体験・検証	車椅子・疑似体験ツール・UD機器
	25	生物機能実験室	北339	生物機能実験	垂直風洞、水平風洞
	26	空間演出実験室	北136	空間演出実験	大型プリンター、調光システム、簡易撮影台
	27	工作室	南178	デジタルファブリケーション	レーザー加工機、3Dプリンタ
情報系工房	28	電子制御機器製作室	北340	電子制御機器製作	PC組立部品一式、電子回路設計支援ツル
	29	OA室	南391	CAD、3次元デザイン等	MacPC、WinPC、インクジェットプリンター、レーザープリンター
	30	マルチメディア室・サウンドスタジオ	南496	デジタルコンテンツの作成・編集、録音	サウンドスタジオ、MacPC、レーザープリンター
	31	グラフィックWS室	南595	3DCG制作、映像編集	WinPC、インクジェットプリンター、レーザープリンター
	32	CG工房	南594	3DCG制作、映像編集	WinPC、映像編集システム

※ 太字で記入された工房は、安全な服装が必要な工房です。

第14章 大学の成り立ち

1 大学の設立の契機

平成2年に浜松市へ文科系大学を誘致する動きが起こり、平成3年4月に静岡県立大学短期大学部に「将来構想検討作業部会」が設置され、四年制大学への移行を検討すべきとの結論が出された。この動きとほぼ同時に浜松市及び浜松商工会議所は、学生の人口流出状況から、四年制大学の設置に積極的であり、静岡県立大学短期大学部の四年制化を積極的に後押ししていくことになった。

平成4年4月に静岡県立大学短期大学部の入学式において、斉藤滋与史知事は、校舎が老朽していることに對し、「高等教育機関として相応しくないので検討すべき」と発言し、翌年2月に同短期大学部の四年制化を記者会見で公式に発言した。これにより、新大学設立の動きが加速していくこととなった。

平成5年8月に石川嘉延知事が就任した。当初は、有名私立大学を静岡県内に誘致する可能性を模索していたが、これまでの経緯から浜松市に四年制大学を設置することを了承した。新大学を公設民営方式とすることにより、静岡県は大学に補助金を支出し、浜松市が用地を提供し、地元産業界は大学をサポートするという体制をとることになった。当時、公設民営方式の大学は少なく、平成9年に公設民営方式で開学した高知工科大学などを参考に事業を進めた。ただし、本学は既存の大学を改組転換したものであり、公立大学法人制度に先駆けるかたちで設置された全国最初の大学となった。

2 新大学の設立に向けて

平成6年4月に県大学室がそれまでの議論を踏まえて「新大学整備構想」を作成し、これが教育方針の土台となった。学長予定者には、高坂正堯京都大学教授を迎えることとし、平成6年8月に「新大学基本構想検討委員会」を設置し、「感性を磨き、新世紀を創造する開かれた大学」の基本構想を基に開学日、場所等を決定、県議会において公表した。

3 設立における基本構想

高坂先生は、「知性と感性の有機的な関係を作り上げたい」、「浜松を文化的な町にする、個性を持った町にする、それが我々の使命でもある」と述べ、浜松地域における大学の意義を強調した。また、教育方針として「見る、表現する、感動を与える」能力を育てることとし、哲学と歴史を大事にすることにより、表現力を育て、知性と感性のバランスのとれた人間をつくることが挙げられた。その後、高坂先生は急逝されその遺志は木村尚三郎先生に引き継がれた。

4 大学用地

当時、多くの大学が郊外に移転する傾向にある中、新大学は浜松市の中心部に設置するという方針をとった。

面積が十分ではなかったが、若者による街の賑わいの創出や都市イメージを高めることを目的とした。これは、大学を活用して中心市街地の活性化を図りたい浜松市側の意向と地域住民と連携したいという大学側の意向とが一致したものであった。

5 建築の特徴

本学の建物のデザインは指名設計競技によって、株式会社坂倉建築研究所（東京都港区）の提案に決定された。

「技術と芸術の結」「二十一世紀を担う新しい大学」という基本的なコンセプトを基に以下の特色が挙げられた。

- ・「二十一世紀の新しい大学像」の創出
- ・「創造の丘」「思索の木陰」「研鑽の塔」がつくる景観シンボルの現出
- ・「開く空間」と「学習・研究のための守られた空間」の共存
- ・「ゆらぎの理論」・「共通感覚論」に触発された建築空間デザイン
- ・緑と共生する大学

また、静岡県が平成11年から政策的にユニバーサルデザイン理念を採用することになったことから、本学の建築はユニバーサルデザインを踏まえて設計・施工されたと謳うことになった。

このほか、①市民に開かれた大学として門をなくし数多くの場所から出入りができること、②廊下に壁がない構造、分かりやすいサイン表示の実施、③環境や景観への配慮としての人工地盤による屋上緑化、雨水再利用、太陽光発電の実施、④機能別に教室等を配置して学部・学科の垣根を取り外した構造などが挙げられる。

6 大学のあゆみ

平成10年	9月	文部大臣へ学校法人設立及び大学設置認可申請
平成11年	6月	学校法人設立及び大学設置認可第2次申請
	12月	文部大臣から学校法人設立及び大学設置認可 学校法人静岡文化芸術大学設立
平成12年	4月	開学（4月13日に開学式典及び入学式を挙行） 木村尚三郎学長 就任（平成18年10月まで）
平成15年	6月	文部科学大臣へ大学院設置許可申請
	11月	文部科学大臣から大学院設置認可
平成16年	1月	大学院入学試験開始
	3月	大学一期生卒業
	4月	大学院開学
平成18年	3月	大学院一期生卒業
	4月	デザイン学部技術造形学科をメディア造形学科に名称変更
平成19年	4月	川勝平太学長 就任（平成21年6月まで）
平成22年	1月	熊倉功夫学長 就任（平成28年3月まで）
	4月	学校法人から静岡県設立の公立大学法人へ移行 有馬朗人理事長 就任
	10月	創立10周年記念式典開催
平成27年	4月	デザイン学部3学科をデザイン学科1学科に再編し、新たに5領域を設定
平成28年	4月	横山俊夫学長 就任
平成30年	4月	フェアトレード大学認定（アジア初）
平成31年	4月	文化政策学部「文明観光学コース」、デザイン学部「匠領域」を設置
令和2年	7月	創立20周年記事業開催（記念式典は中止）
令和4年	4月	横山俊夫理事長兼学長 就任
令和7年	4月	文化政策学部「オプショナルスタディーズ」設置、デザイン学部 1学科6領域から1学科で横断的に幅広く学ぶ新カリキュラム開始

